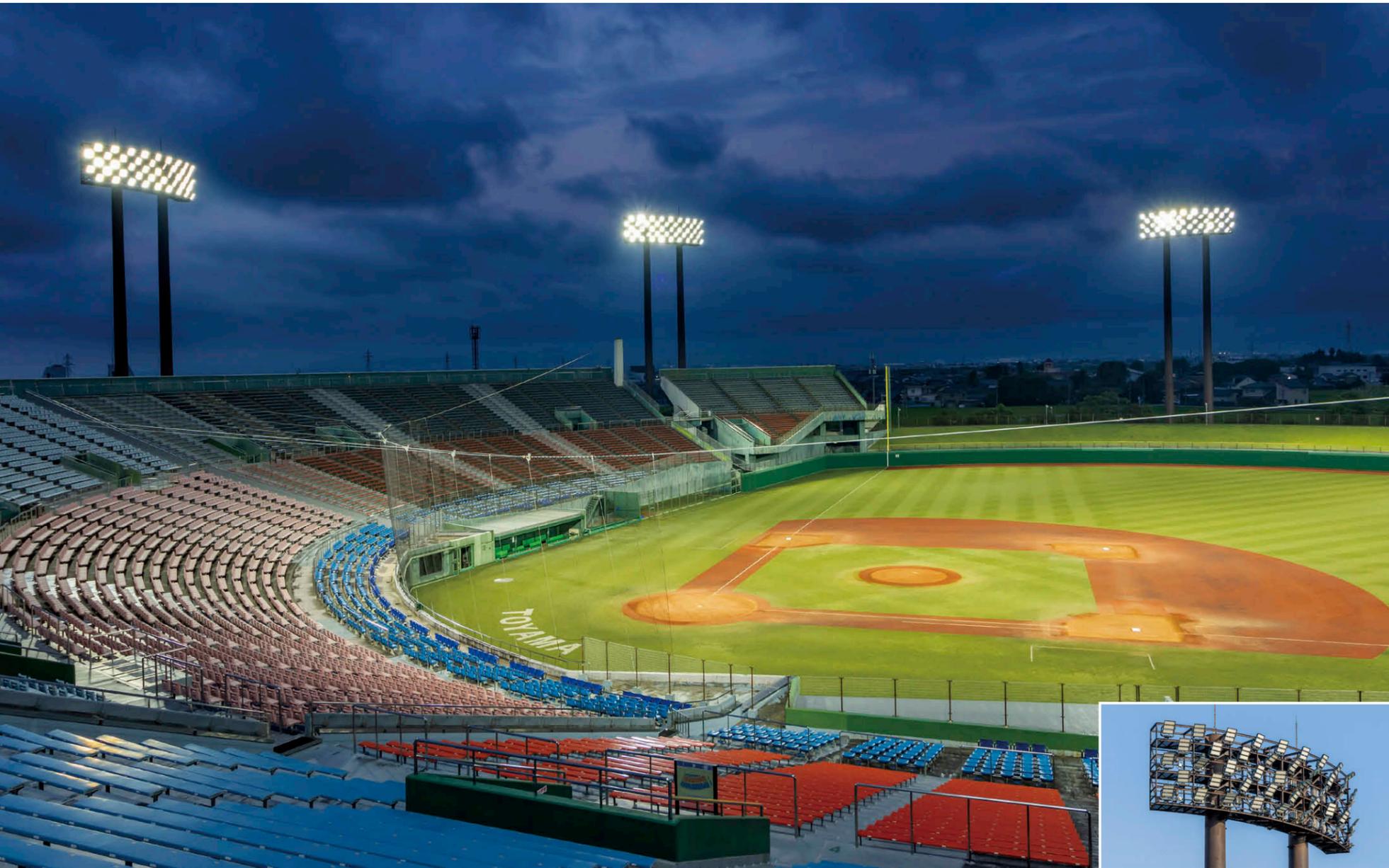


1992年の開場から30年以上経つ富山市民球場では老朽化した設備の改修工事が進み、昨年はスコアボードやメインスピーカー、スピードガンを更新し、新たにハイビジョンカメラの設置などを行いました。そして今年、ナイター設備を従来の1kW形メタルハライドランプ投光器とナトリウムランプ投光器からLED投光器アリーナビジョンへ更新しました。

富山市民球場は富山市が市制100周年の記念事業の一つとして、1992年に北陸地方初の全面人工芝の野球場として完成しました。晴天時に内野スタンドから立山連峰が望めることも名物の一つで、愛称は「アルペンスタジアム」。3万人収容のスタンドを有し、開場以来、プロ野球をはじめ社会人野球、高校野球などの公式戦に使用されています。



【物件概要】
所在地：富山県富山市下飯野30-1
球場面積：14,200㎡
収容人員：30,000人
施主：富山市
施工：電気/㈱北陸電設
竣工：2024年3月



一塁側内野スタンド後方より見たLED投光器アリーナビジョンによるナイター照明。



バックネット裏のスタンド後方から球場全体を望む。



グラウンドのホームベース後方からスコアボードを望む。



既設照明塔に設置されたArenaVision LED。

プロ野球公式戦を開催する照明基準を高いレベルでクリア。DMX対応で自在な調光と多彩な照明演出も可能。

富山市民球場は両翼99.1m、中堅122mの広さにナイター設備を備え、プロ野球球団が公式戦を開催してきたことでも知られます。今回のナイター設備の更新は、演色性向上による視認性アップ、高効率器具による省エネ、シャープな配光による光環境の実現を目的としています。従来の1kW形メタルハライドランプ投光器420台とナトリウムランプ投光器120台の混光から新たに導入したのはLED投光器アリーナビジョン270台です。既設の照明塔6基を活かし、各45台を設置。求められる照度、均斉度、グレア値をクリアするため投光器の振り角度を微細に調整しました。

全点灯における平均照度は内野2,000ルクス、外野1,500ルクス、バッテリー間2,500ルクスでプロ野球公式試合における照度基準を満たしています。0~100%調光に対応しているため、主に利用されるアマチュアの試合ではJISの競技用照明基準に沿った照明で対応します。またグレアを抑え、均斉度は内野0.81、外野0.84という高さを実現。漏れ光も周辺の耕作障害が起こらないよう従来と同等に調整しています。さらにLED投光器アリーナビジョンはDMXに対応し自由にプログラミングした照明制御ができるため、多彩な照明演出も可能になりました。



主操作盤 DMX制御盤



三塁側から見たライトスタンドと外野の照明。



一塁側ベンチの後方からライトスタンド方向を望む。

主な掲載器具一覧		器具名 (品名)	形名	台数	備考
設置場所					
照明塔		LED投光器アリーナビジョン 2kW 形メタルハライドランプ器具相当	BVP428-2シリーズ	270	消費電力:1,500W